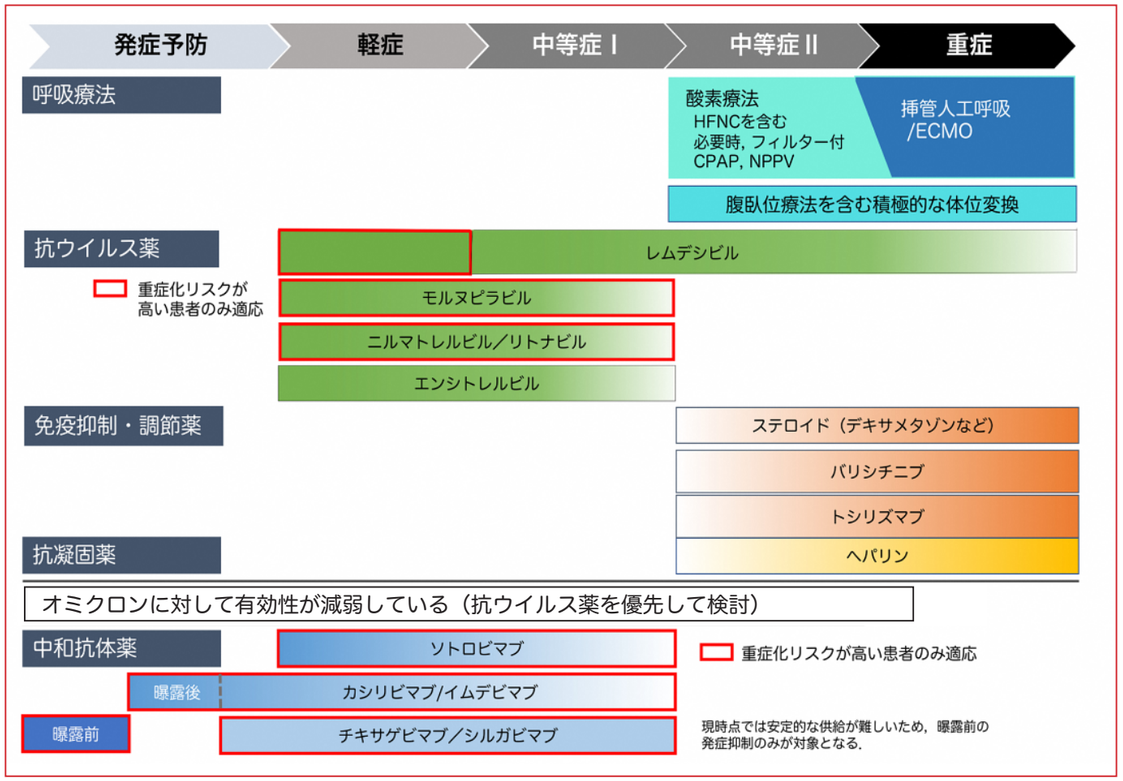
COVID-19 外来診療の基礎知識

図１　重症度別マネジメントのまとめ



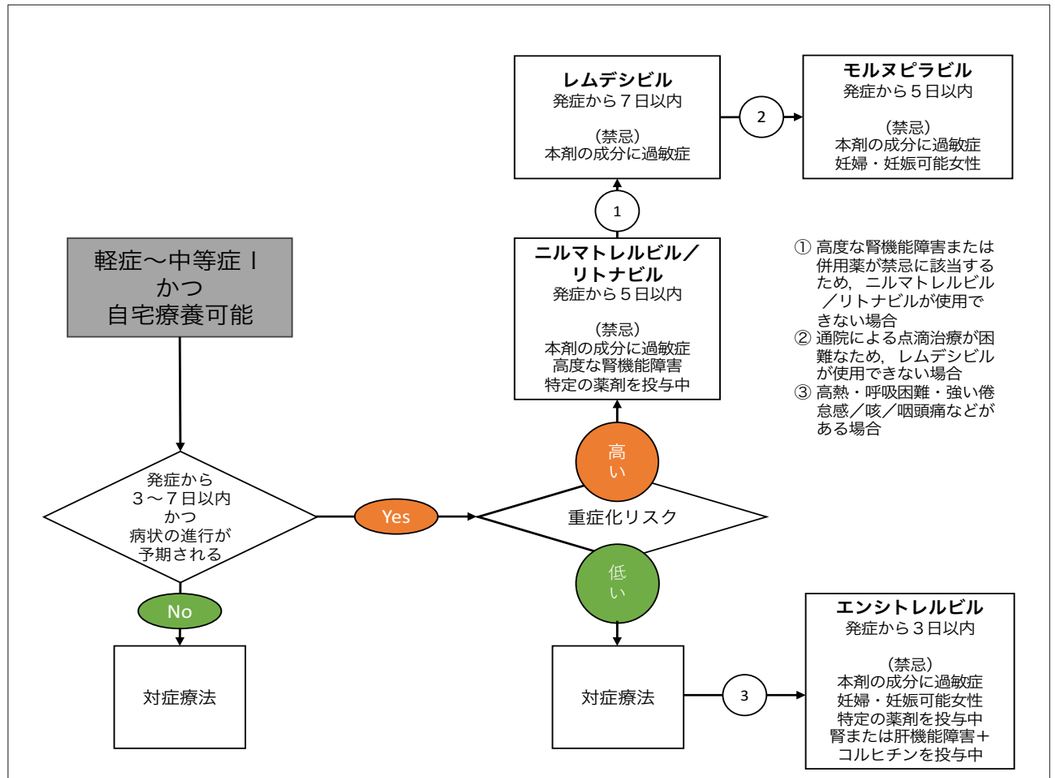
・重症度は発症からの日数，ワクチン接種歴，重症化リスク因子，合併症などを考慮して，繰り返し評価を行うことが重要である．

・個々の患者の治療は，基礎疾患や合併症，患者の意思，地域の医療体制などを加味した上で個別に判断する．

図２　重症化のリスク評価

		リスク低い	リスク高い
重症化リスク因子（「2-2 重症化のリスク因子」参照）	年　齢	60 歳未満	80 歳以上
	基礎疾患等	なし	複数あり
	基礎疾患等の管理	良好	不良
〈重症化リスク因子に加えて考慮する点〉			
新型コロナワクチン接種状況		発症の 6 カ月以内に追加接種	未接種
症状		咽頭痛・鼻汁のみ	呼吸困難 高熱の持続 強い倦怠感

図３　成人の外来診療における抗ウイルス薬の選択



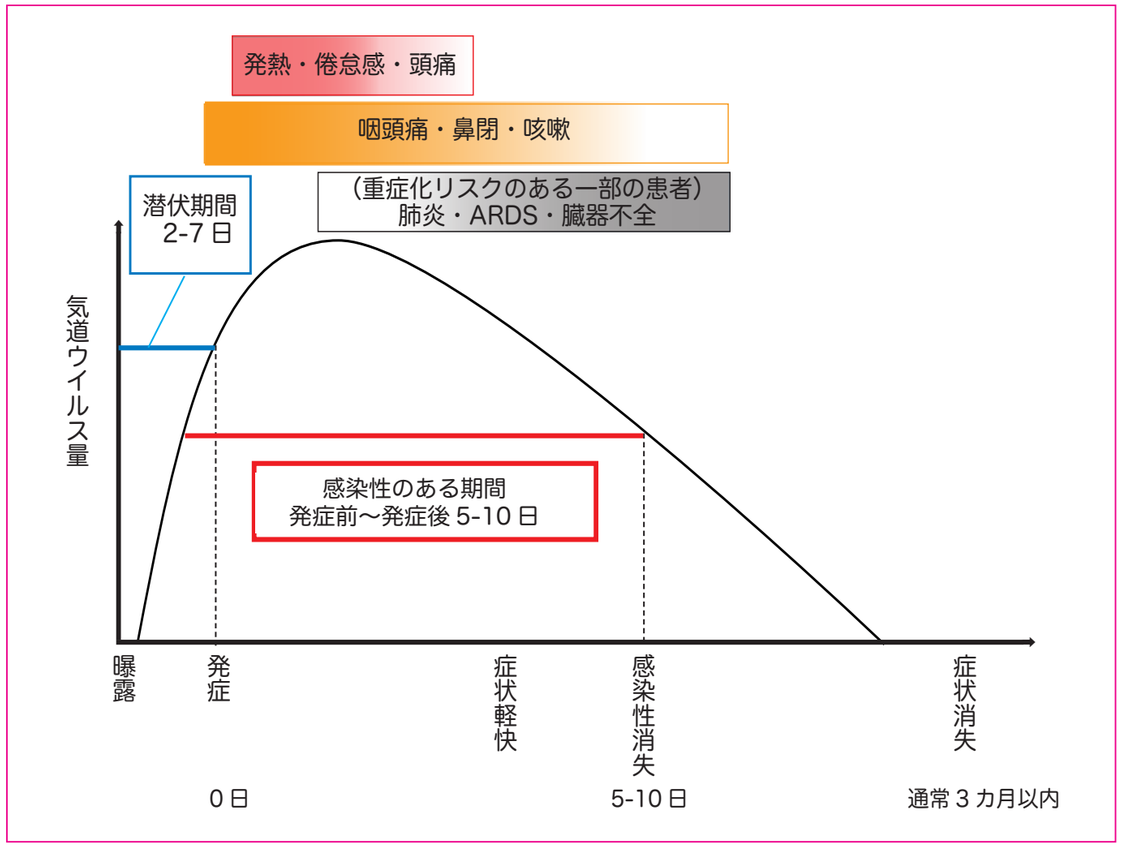
〈参考〉・NIH. COVID-19 treatment guidelines, 21 July 2023.
・WHO．Therapeutics and COVID-19: living guideline, 13 Jan 2023.
・日本感染症学会．COVID-19 に対する薬物治療の考え方 第 15.1 版 , 14 Feb 2023.

- 重症化リスクの低い（図 2）軽症の患者では，特別な医療によらなくても，経過観察のみで自然に軽快することが多い．
- 重症度評価のため，パルスオキシメーターにより SpO_2 を測定することが望ましい．
- 重症化リスクの高い患者では，診断時は軽症と判断されても，発症後数日から 2 週目までに病状が進行することがある．
- 重症化リスクの高い患者に対して，早期に抗ウイルス薬を投与することは，入院や死亡を減らすことが期待される．
- 解熱鎮痛薬や鎮咳薬などの対症療法を必要に応じて行う（非ステロイド性抗炎症薬が COVID-19 の予後を悪化させるというエビデンスはない）．
- 軽症～中等症Ⅰの患者に対し，ステロイド薬は使用すべきではない．ただし，他疾患で使用中のステロイド薬を中止する必要はない．
- 発症から 5 日間，かつ症状軽快から 1 日以上経過するまで，人との接触はできるだけ避けるよう指導する．同居家族がいる場合には生活空間を分けること，マスク着用や手洗いの励行を指導する．
- 急性期の症状が遷延したり再燃する場合には，医療機関を受診するよう指導する．発症から 3 カ月を経過しても，何らかの症状が 2 カ月以上持続しており，他に明らかな原因がない場合には，罹患後症状を疑う．

『COVID-19 診療の手引き 10.0 版』（2023.8.21. より作成）

COVID-19 外来診療の基礎知識

図 1　COVID-19 患者の臨床経過

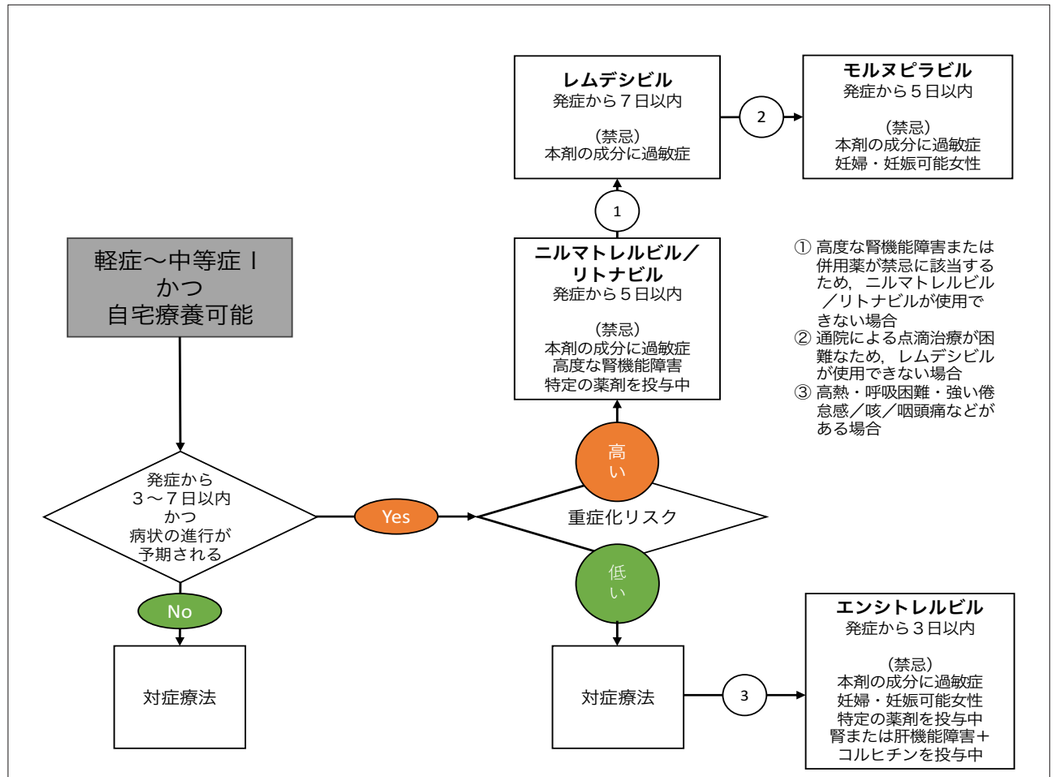


＊特殊な免疫不全（例：血液悪性腫瘍，キメラ抗原受容体 T 細胞療法，造血幹細胞移植，抗 CD20 モノクローナル抗体による治療などで B 細胞が枯渇した状態，固形臓器移植後）がある患者ではウイルス排出が長期間持続しうることが報告されている．

図 2　重症化のリスク評価

		リスク低い	リスク高い
重症化リスク因子（「2-2 重症化のリスク因子」参照）	年　齢	60 歳未満	80 歳以上
	基礎疾患等	なし	複数あり
	基礎疾患等の管理	良好	不良
〈重症化リスク因子に加えて考慮する点〉			
新型コロナワクチン接種状況		発症の 6 カ月以内に追加接種	未接種
症状		咽頭痛・鼻汁のみ	呼吸困難 高熱の持続 強い倦怠感

図 3　成人の外来診療における抗ウイルス薬の選択



〈参考〉・NIH. COVID-19 treatment guidelines, 21 July 2023.
・WHO．Therapeutics and COVID-19: living guideline, 13 Jan 2023.
・日本感染症学会．COVID-19 に対する薬物治療の考え方 第 15.1 版 , 14 Feb 2023.

- 重症化リスクの低い（図 2）軽症の患者では，特別な医療によらなくても，経過観察のみで自然に軽快することが多い．
- 重症度評価のため，パルスオキシメーターにより SpO_2 を測定することが望ましい．
- 重症化リスクの高い患者では，診断時は軽症と判断されても，発症後数日から 2 週目までに病状が進行することがある．
- 重症化リスクの高い患者に対して，早期に抗ウイルス薬を投与することは，入院や死亡を減らすことが期待される．
- 解熱鎮痛薬や鎮咳薬などの対症療法を必要に応じて行う（非ステロイド性抗炎症薬が COVID-19 の予後を悪化させるというエビデンスはない）．
- 軽症～中等症 I の患者に対し，ステロイド薬は使用すべきではない．ただし，他疾患で使用中のステロイド薬を中止する必要はない．
- 発症から 5 日間，かつ症状軽快から 1 日以上経過するまで，人との接触はできるだけ避けるよう指導する．同居家族がいる場合には生活空間を分けること，マスク着用や手洗いの励行を指導する．
- 急性期の症状が遷延したり再燃する場合には，医療機関を受診するよう指導する．発症から 3 カ月を経過しても，何らかの症状が 2 カ月以上持続しており，他に明らかな原因がない場合には，罹患後症状を疑う．

『COVID-19 診療の手引き 10.0 版』（2023.8.21. より作成）